



三菱電機  
水冷式チーリングユニット  
[業務用]

形名

MCR-SP40KE  
MCR-SP50KE  
MCR-SP60KE  
MCR-SP80KE  
MCR-SP100KE  
MCR-SP120KE  
MCR-SP150KE

冷媒 R407C

据付工事説明書（販売店・工事店様用）

- ・この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。  
据付工事の前に、この説明書を必ずお読みください。
- ・「据付工事説明書」は大切に保管してください。
- ・お客様ご自身では、据付けないでください。（安全や機能の確保ができません。）
- ・この製品は、日本国内用に設計されていますので、国外では使用できません。また、アフターサービスもできません。  
This appliance is designed for use in Japan only and the contents in this document cannot be applied in any other country. No servicing is available outside of Japan.

この度は、水冷式チーリングユニットMCR-SPOOOKE形をお買上げ頂き、  
有難うございました。

ご使用に際して、ユニットの機能を発揮させ、常に最良の状態で運転する為に、  
本据付工事説明書を前もってご一読くださるようお願ひいたします。

本書の内容につきまして、不明な点がございましたら最寄りの当社営業所または代理店に  
お問い合わせください。

目次	ページ
1 安全のために必ず守ること	----- 3
2 据付	----- 8
(1) 受入れおよび解梱	
(2) 搬入	
(3) 据付	
(4) 漏れチェック	
(5) 保護装置、制御機器の封印	
3 冷却水・冷水配管	----- 12
(1) 必要な冷却水、冷水流量	
(2) 最小保有水量	
(3) ユニット内の水側内容積	
(4) 配管施工上の注意	
(5) ポンプの運転について	
(6) 冷水・冷却水の水質について	
4 電気配線	----- 19
(1) 主電源接続	
(2) 制御回路接続	
(3) 配線チェック	
(4) 電気配線機器容量および 電線サイズ	
(5) 冷水ポンプの運動運転 による水温上昇防止	

# 安全のために必ず守ること

- この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、据付けてください。
- ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。

## ⚠ 警告

取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度

## ⚠ 注意

取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度

- 図記号の意味は次のとおりです。



(一般禁止)



(接触禁止)



(水ぬれ禁止)



(ぬれ手禁止)



(一般注意)



(発火注意)



(破裂注意)



(感電注意)



(高温注意)



(回転物注意)



(一般指示)



(アース線を必ず接続せよ)

- お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。

- お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

## ⚠ 警告

電気配線工事は、法令に基づく資格のある電気工事業者に依頼し、「第一種電気工事士」の資格を有する者が行う。(第二種電気工事士は電気工事士法で認められた範囲のみ対応可)

冷凍保安規則に基づき、機器の設置又は変更の工事を完成したときは、設計圧力以上の圧力で行う気密試験を行う。

ろう付け作業は以下のいずれかを満たす者が行うこと。

- 冷凍空気調和機器施工技能士資格を保有する者（1級及び2級に限る）
- ガス溶接技能講習を修了した者
- その他厚生労働大臣が定めた者

## 一般事項

## ⚠ 警告

当社指定の冷媒以外は絶対に封入しないこと。

- 使用時・修理時・廃棄時などに、破裂・爆発・火災のおそれあり。
- 法令違反のおそれあり。

封入冷媒の種類は、機器付属の説明書・銘板に記載し指定しています。

指定冷媒以外を封入した場合、故障・誤作動などの不具合・事故に関して当社は一切責任を負いません。



禁止

特殊環境では、使用しないこと。

- 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用した場合、著しい性能低下・腐食による冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・故障・発煙・火災のおそれあり。



使用禁止

<p><b>保護装置の改造や設定変更をしないこと。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圧力開閉器・温度開閉器などの保護装置を短絡して強制的に運転を行った場合、または当社指定品以外のものを使用した場合、破裂・発火・火災・爆発のおそれあり。</li> </ul>	<p><b>運転中および運転停止直後の冷媒配管・冷媒回路部品に素手で触れないこと。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷媒は、循環過程で低温または高温になるため、素手で触ると凍傷・火傷のおそれあり。</li> </ul>
<p><b>ユニットの据付・点検・修理をする前に周囲の安全を確認し、子どもを近づけないこと。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工具などが落下すると、けがおそれあり。</li> </ul>	<p><b>ユニットに素手で触れないこと。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高温になるため、素手で触ると火傷のおそれあり。</li> </ul>
<p><b>改造はしないこと。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。</li> </ul>	<p><b>バルブ類は取扱説明書・据付工事説明書・銘板の指示に従って、すべての開閉状態を確認すること。保安上のバルブ（安全弁）は運転中に開けること。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開閉状態に誤りがあると、水漏れ・火災・破裂・爆発のおそれあり。</li> </ul>
<p><b>ヒューズ交換時は、指定容量のヒューズを使用し、針金・銅線で代用しないこと。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発火・火災のおそれあり。</li> </ul>	<p><b>換気をよくすること。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。</li> <li>・冷媒が火気に触れた場合、有毒ガス発生のおそれあり。</li> </ul>
<p><b>運転中および運転停止直後の電気部品に素手で触れないこと。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火傷・感電のおそれあり。</li> </ul>	<p><b>異常時（こげ臭いなど）は、運転を停止して電源スイッチを切ること。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お買い上げの販売店・お客様相談窓口に連絡すること。</li> <li>・異常のまま運転を続けた場合、感電・故障・火災のおそれあり。</li> </ul>
<p><b>電気部品に水をかけないこと。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。</li> </ul>	<p><b>端子箱や制御箱のカバーまたはパネルを取り付けること。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほこり・水による感電・発煙・発火・火災のおそれあり。</li> </ul>
<p><b>ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。</li> </ul>	<p><b>基礎・据付台が傷んでいないか定期的に点検すること。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニットの転倒・落下によるけがのおそれあり。</li> </ul>
<p><b>安全装置・保護装置の設定値は変更しないこと。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定値を変えると、ユニット破裂・爆発のおそれあり。</li> </ul>	<p><b>ユニットの廃棄は、専門業者に依頼すること。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニット内に充てんした油や冷媒を取り除いて廃棄しないと、環境破壊・火災・爆発のおそれあり。</li> </ul>
<p><b>冷媒回路内に冷媒ガス・油を封入した状態で、封止状態を作らないこと。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・破裂・爆発のおそれあり。</li> </ul>	<p><b>屋外で使用しないこと。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漏電、感電のおそれあり。</li> </ul>
<p><b>掃除・整備・点検をする場合、運転を停止して、主電源を切ること。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けが・感電のおそれあり</li> <li>・ファン・回転機器により、けがのおそれあり。</li> </ul>	<p><b>湿気の多いところや、水のかかり易い場所に据え付けないこと。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漏電、感電のおそれあり。</li> </ul>

## 安全のために必ず守ること

### ⚠ 注意

ユニットの近くに可燃物を置いたり、可燃性スプレーを使用したりしないこと。

- ・引火・火災・爆発のおそれあり。



使用禁止

ユニットの上に乗ったり物を載せたりしないこと。

- ・ユニットの転倒や載せたものの落下によるけがのおそれあり。



使用禁止

ぬれて困るものを下に置かないこと。

- ・ユニットからの露落ちにより、ぬれるおそれあり。



禁止

パネルやガードを外したまま運転しないこと。

- ・回転機器に触れると、巻込まれてけがのおそれあり。
- ・高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- ・高温部に触れると、火傷のおそれあり。



使用禁止

部品端面・ファンや熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- ・けがのおそれあり。



接触禁止

保護具を身に付けて操作すること。

- ・給油・排油作業は油が飛び出す。触れるとけがのおそれあり。



油注意

作業するときは保護具を身につけること。

- ・けがのおそれあり。



けが注意

保護具を身に付けて操作すること。

- ・主電源を切っても数分間は充電された電気が残っている。触ると感電のおそれあり。



感電注意

保護具を身に付けて操作すること。

- ・スイッチ〈運転一停止〉を OFF にしても基板の各部や端子台には電圧がかかっている。触ると感電のおそれあり。



感電注意

保護具を身に付けて操作すること。

- ・各基板の端子には電圧がかかっている。触ると感電のおそれあり。



感電注意

電気部品を触るときは、保護具を身に付けること。

- ・高温部に触ると、火傷のおそれあり。
- ・高電圧部に触ると、感電のおそれあり。



感電注意

ユニット内の冷媒は回収すること。

- ・冷媒は再利用するか、処理業者に依頼して廃棄すること。
- ・大気に放出すると、環境破壊のおそれあり。



指示を実行

冷水、冷却水は飲用・食品製造用などの用途に直接使用しないこと。

- ・体調悪化や健康障害、食品劣化のおそれあり。



指示を実行

### 運搬・据付工事をするときに

### ⚠ 警告

搬入を行う場合、ユニットの指定位置にて吊下げる。また、横ずれしないよう固定し、四点支持で行うこと。

- ・三点支持で運搬・吊下げをした場合、不安定になり、ユニットが転倒・落下し、けがのおそれあり。



運搬注意

### ⚠ 注意

20kg 以上の製品の運搬は、1 人でしないこと。

- ・けがのおそれあり。



運搬禁止

## 据付工事をするときに

### ！警告

可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところにユニットを設置しないこと。

- ・可燃性ガスがユニットの周囲にたまると、火災・爆発のおそれあり。



禁止

専門業者以外の人が触れるおそれがあるところにユニットを設置しないこと。

- ・ユニットに触れた場合、けがのおそれあり。



禁止

販売店または専門業者が据付工事説明書に従って据付工事を行うこと。

標準外仕様の場合は納入図の据付工事方法を参照すること。

- ・冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

輸送用金具、付属品の装着や取り外しを行うこと。

- ・不備がある場合、冷媒が漏れ、酸素欠乏・発煙・発火のおそれあり。



指示を実行

冷媒が漏れた場合の限界濃度対策を行うこと。

- ・冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。(ガス漏れ検知器の設置をすすめます。)



指示を実行

販売店または専門業者が当社指定の別売品を取り付けること。

- ・不備がある場合、水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



指示を実行

梱包材は破棄すること。

- ・けがのおそれあり。



指示を実行

梱包材は破棄すること。

- ・窒息事故のおそれあり。



指示を実行

強風・地震に備え、所定の据付工事を行うこと。

- ・不備がある場合、ユニットが転倒・落下し、けがのおそれあり。



指示を実行

ユニットは水準器などを使用して、水平に据付けること。

- ・据付けたユニットに傾斜がある場合、ユニットが転倒し、けがのおそれあり。水漏れのおそれあり。



指示を実行

ユニットの質量に耐えられるところに据付けること。

- ・強度不足や取り付けに不備がある場合、ユニットが転倒・落下し、けがのおそれあり。



指示を実行

## 電気工事をするときに

### ！警告

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

- ・伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

- ・発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

配線が冷媒配管・部品端面に触れないこと。

- ・配線が接触した場合、漏電・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

電気工事をする前に、主電源を切ること。

- ・けが・感電のおそれあり。



感電注意

正しい容量のブレーカー（漏電遮断器）を使用すること。

- ・大きな容量のブレーカーや針金・銅線を使用した場合、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

電源配線には、電流容量などに適合した規格品の配線を使用すること。

- ・漏電・発熱・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

## 安全のために必ず守ること

電気工事は第一種電気工事士（工事条件によっては第二種電気工事士）の資格のある者が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って行うこと。電気配線には所定の配線を用い専用回路を使用すること。

- ・電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

むき配線が端子台の外にはみ出さないように接続すること。

- ・むき線同士が接触した場合、感電・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

D種接地工事（アース工事）は第一種電気工事士（工事条件によっては第二種電気工事士）の資格のある電気工事業者が行うこと。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないこと。

- ・感電・ノイズによる誤動作・発煙・発火・火災・爆発のおそれあり。



アース接続

## ⚠ 注意

端子台に配線の切くずが入らないようにすること。

- ・ショート・感電・故障のおそれあり。



感電注意

## 移設・修理をするときに

### ⚠ 警告

改造はしないこと。ユニットの移設・分解・修理は販売店または専門業者に依頼すること。

- ・冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

修理をした場合、部品を元通り取り付けすること。

- ・不備がある場合、けが・感電・火災のおそれあり。



指示を実行

## ⚠ 注意

基板に手・工具で触れたり、ほこりを付着させたりしないこと。

- ・ショート・感電・故障・火災のおそれあり。



接触禁止

点検・修理時は、配管支持部材・断熱材の状態を確認し劣化しているものは補修または交換すること。

- ・冷媒漏れ・水漏れのおそれあり。



指示を実行

## 2. 据付

### (1) 受入れおよび解梱

ユニットが到着したら、仕様書または出荷案内書と引合せ、部品の不足はないか、輸送中の損傷はないかなど現品をよく調べ、もし不足や損傷があれば代理店または最寄りの営業所へご連絡下さい。

### (2) 搬入

#### △注意

ユニットの上に乗ったり物を載せたり しないこと。	
・ユニットの転倒や載せたものの落下による	使用禁止

- ① 吊上げはユニット枠の4本の吊具にフックを掛け行って下さい。このとき制御箱、配管などを傷付けないようにし、もしロープが当たるときは適当な引棒を入れるようにして下さい。  
(図2-1)
- ② 吊上げ用のロープは製品質量に見合ったロープ強度にして下さい。製品質量は表2-1の通りです。

表2-1 製品質量表 単位 : kg

形名	MCR-SP40KE	MCR-SP50KE	MCR-SP60KE	MCR-SP80KE
製品質量	920	970	1050	1090

形名	MCR-SP100KE	MCR-SP120KE	MCR-SP150KE
製品質量	1660	1830	1980

- ③ 吊の際はユニットに衝撃力が加わらないよう十分注意して下さい。またユニットはできるだけ傾斜させないよう吊上げて下さい。
- ④ ユニット枠の吊具の使用はユニットを正常姿勢で吊る場合のみとし、その他の場合には使用しないようにして下さい。

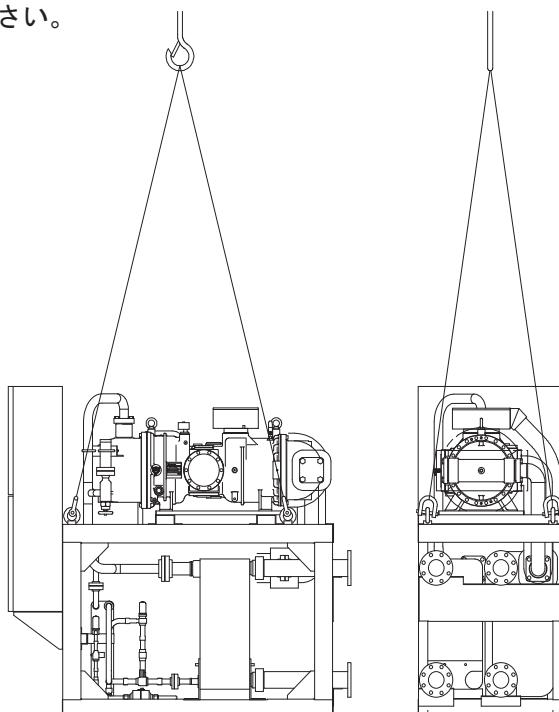


図2-1 ユニット吊上げ要領

## (3) 据付

## ! 警告

販売店または専門業者が据付工事説明書に従って据付工事を行うこと。  
標準外仕様の場合は納入図の据付工事方法を参照すること。

・冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところにユニットを設置しないこと。

・可燃性ガスがユニットの周囲にたまると、火災・爆発のおそれあり。



添付禁止

ユニットの質量に耐えられるところに据付けること。

・強度不足や取り付けに不備がある場合、ユニットが転倒・落下し、けがのおそれあり。



指示を実行

- ① ユニットは屋内設置形ですので、雨水や直射日光の当たらない場所に設置してください。
- ② ユニットは周囲温度が0~40°Cの場所に設置下さい。(0°C以下の雰囲気に設置した場合、制御盤面の液晶パネルの画面表示ができなくなることや、制御盤内の基板が正常に動作しないことがあります。)
- ③ ユニットの基礎(図2-2)はコンクリートまたは鋼製とし、運転重量に充分耐えるものでなければなりません。水平度は3mm/1000mm以内として下さい。

## お願い

・凍結の恐れのある場所には、据え付けないで下さい。周囲温度が0°C以下になると給排水管に破裂が生じる恐れがあります。水抜きの実施、凍結防止を行って下さい。給排水管の破裂から浸水し、周囲(家財など)を濡らす原因になることがあります。

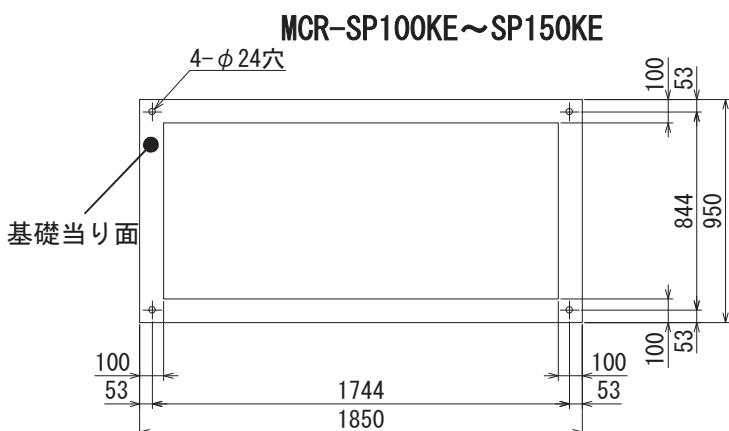
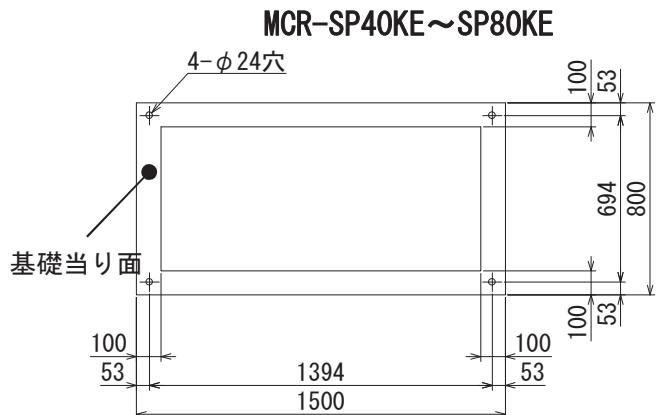


図2-2 基礎図

- ④ サービススペースは図2-3の通りです。  
サービススペースに壁や障害物がないようにして下さい。

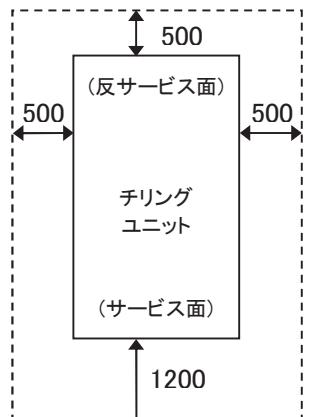


図2-3 サービススペース

- ⑤ 据付の際は図2-4に示すように、基礎の上に付属の防振パッドを取り付け、その上にユニットを据付けて下さい。基礎ボルトのナットは指で締め付ける程度で充分です。

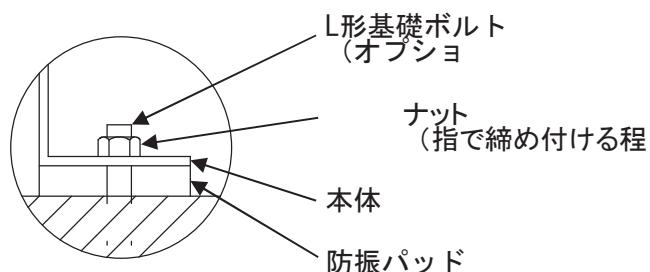


図2-4 防振パッド取付要領

- ⑥ ユニットは工場にて保冷を施工していますが、設置条件（目安として相対湿度が80%を超えるような場合）によっては、低圧側配管や機器（エコノマイザ等）の保冷表面に結露が発生することがあります。  
よって、現地側にて必ず基礎部に排水溝の設置をお願いします。

#### (4) 漏れチェック

冷媒及び冷凍機油はチャージ済です。

ユニット据付後、必ずリークテスターにて冷媒漏れチェックを行って下さい。

リークテスターはHFC冷媒専用品を使用して下さい。

尚、輸送中あるいは搬入中に冷媒系統に損傷があったときは、冷媒が漏れてゲージの読みが0MPaになるのすぐに判ります。万一、冷媒漏れが確認された場合は、取扱説明書の手順で修理して下さい。

冷媒漏れチェック時はHFC専用のリークテスターを使用して下さい。従来のリークテスターでは、冷媒漏れの有無を正確に検知出来ないため、検出漏れ、誤検知の原因になります。

## (5) 保護装置、制御機器の封印

- ① 次の保護装置及び制御機器は、工場にて正しい設定値に調整後、封印（ペイント）して出荷しています。
  - ・安全弁
  - ・高圧開閉器
- ② 封印付機器の取扱においては下記を留意下さい。
  - (a) 封印は切らないこと。
  - (b) 但し作動チェックは行うこと。
  - (c) 保証期間の作動不良はそのまま返品のこと。

### ⚠ 警告

安全装置・保護装置の設定値は変更しないこと。

・設定値をえると、ユニット破裂・爆発のおそれあり。



爆発注意

### 3. 冷却水・冷水配管

#### (1) 必要な冷却水・冷水流量

冷却水及び冷水の流量は、次に示す流量の範囲内で必ず使用下さい。水量の過不足は、性能が発揮されないばかりではなく、寿命に影響したりトラブルの原因になります。

##### ●冷却水流量範囲(表3-1)と水頭損失(図3-1)

表3-1 冷却水流量範囲

形名	冷却水流量 ( $\text{m}^3/\text{h}$ )
MCR-SP40KE	15~43
MCR-SP50KE	19~57
MCR-SP60KE	22~67
MCR-SP80KE	28~85
MCR-SP100KE	37~110
MCR-SP120KE	47~120
MCR-SP150KE	56~120

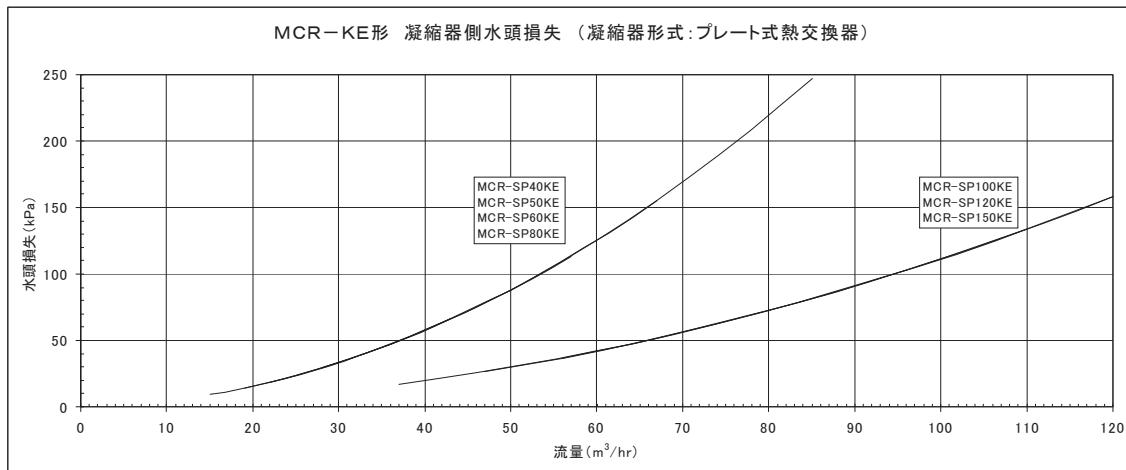


図3-1 凝縮器側水頭損失

##### ●冷却水温度

冷却水温度は出口温度で18~40°Cとして下さい。

##### ●冷却水水圧

冷却水の水圧は、1.0MPa (10.0kg/cm<sup>2</sup>) 以下として下さい。

### 3 冷却水・冷水配管

#### ●冷水流量範囲(表3-2)と水頭損失(図3-2)

表3-2 冷水流量範囲

形名	冷水流量 (m <sup>3</sup> /h)
MCR-SP40KE	10~35
MCR-SP50KE	13~47
MCR-SP60KE	15~55
MCR-SP80KE	20~69
MCR-SP100KE	25~91
MCR-SP120KE	32~115
MCR-SP150KE	38~120

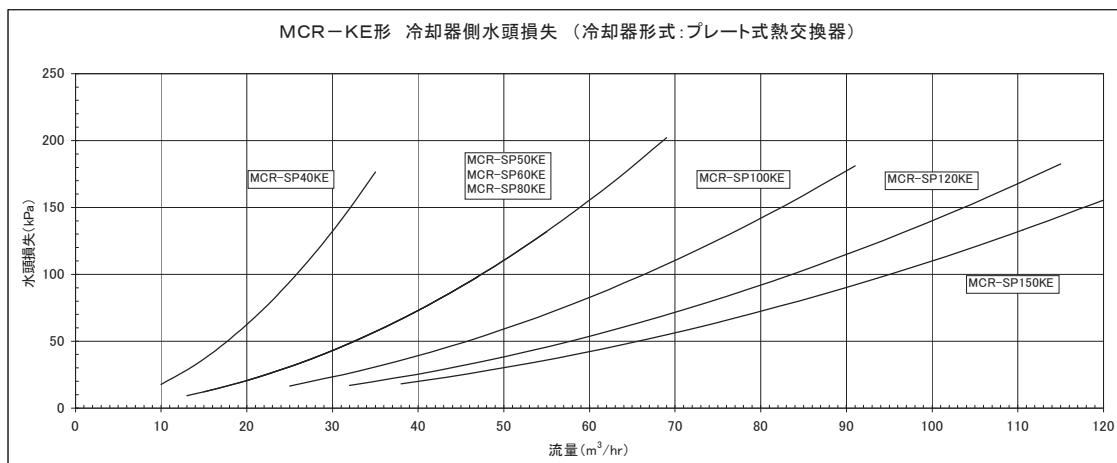


図3-2 蒸発器側水頭損失

#### ●冷水水圧

冷水の水圧は、1.0MPa (10.0kg/cm<sup>2</sup>) 以下として下さい。

#### ※1 流量管理

ユニットの最小流量を下回る運転を行うとプレート式熱交換器が凍結し、凍結パンクに至る場合がありますので、必ずユニットの許容水量範囲でご使用下さい。

ストレーナの詰まり、エアがみ、循環ポンプ不良などによる水量減少がないか点検して下さい。現地水配管にフロースイッチ等を設け、ユニットに供給される水量がユニットの許容最小流量を下回らないように管理するようお願いします。

尚、フロースイッチにつきましては、ご要求に応じオプションにて対応可能です。

(単品付属：現地配管取付)。

又、上記水量を確保しても、現地空調システムにおいて一次側にバイパス回路が設けてあり、軽負荷時に水量が減少する場合は、圧縮機の頻繁な発停や凍結異常などトラブルの原因となることがあります。循環水量は一定流量でご使用いただきますようお願いします。

#### ※2 凍結保護装置作動時の処置

凍結保護装置が作動した場合には、プレート式熱交換器の凍結が生じている場合がありますので、必ず原因を取り除いた後に運転を再開して下さい。原因を取り除く前に運転を再開するとプレート式熱交換器を閉塞させ、氷を融解させることができなくなるだけでなく、繰り返し凍結によりプレート式熱交換器が破損し、冷媒漏れ事故や冷媒回路への水浸入事故につながります。

## (2) 最小保有水量(表3-3)

最小保有水量は負荷がない時にユニットを5分間運転するために必要な水量です。

安定した運転を継続するためには十分な最小保有水量の確保が必要です。

そのためには、蓄熱槽を使用したシステムが最適ですが、そうでない場合は系統中にクッションタンクを設けることで水量を確保して下さい。

表3-3 最小保有水量 単位 : m<sup>3</sup>

形名	MCR-SP40KE	MCR-SP50KE	MCR-SP60KE	MCR-SP80KE
50Hz	0.56	0.75	0.86	1.11
60Hz	0.66	0.88	1.03	1.29

形名	MCR-SP100KE	MCR-SP120KE	MCR-SP150KE
50Hz	1.44	1.82	2.15
60Hz	1.69	2.15	2.58

※冷水出口温度 : 7 °C, 冷却水出口温度 : 35 °C, 最小冷却負荷 = 0 の場合

## (3) ユニット内の水側内容積(凝縮器:表3-4、蒸発器:表3-5)

表3-4 ユニット内水側内容積(凝縮器側)

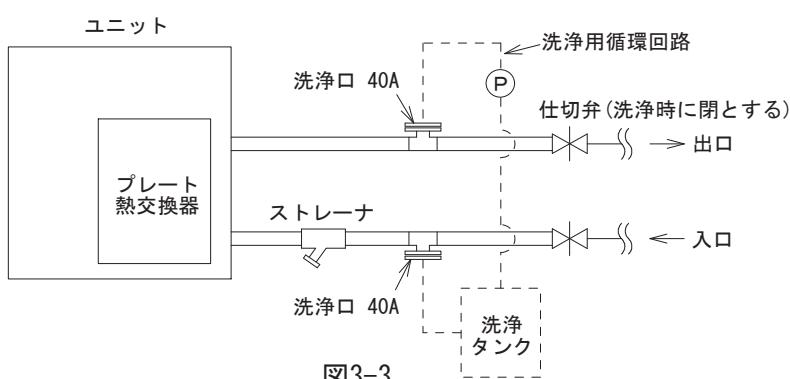
形名	MCR-SP40KE	MCR-SP50KE	MCR-SP60KE	MCR-SP80KE	MCR-SP100KE	MCR-SP120KE	MCR-SP150KE
水側内容積(l)	22	22	22	22	44	44	44

表3-5 ユニット内水側内容積(蒸発器側)

形名	MCR-SP40KE	MCR-SP50KE	MCR-SP60KE	MCR-SP80KE	MCR-SP100KE	MCR-SP120KE	MCR-SP150KE
水側内容積(l)	10	18	18	18	26	34	40

## (4) 配管施工上の注意

- ① 水冷却器の冷水出入口にはフランジを使用しています。  
冷水は上方より入り下方より出るように配管します。
- ② 凝縮器の冷却水出入口はフランジを使用しています。  
冷却水は下方より入り上方より出るように配管します。
- ③ 冷水・冷却水の出入口に温度計を設けておくと運転状態を確認することができます。  
また、配管には適宜仕切弁を付けて水冷却器及び凝縮器だけ切離して水抜きができるようにして下さい。
- ④ 本製品では、水側熱交換器に「ステンレス製プレートを銅ロード付したブレージングプレート式熱交換器」を採用しています。  
プレート式熱交換器は、経年的なスケールや微小な異物の堆積が原因で性能が低下する場合があります。また、プレート式熱交換器内の水側通路が閉塞し、閉塞した部位が凍結と融解を繰り返して凍結破損する場合があります。  
プレート式熱交換器は分解洗浄が不可能な構造となっていますので、計画的・定期的な薬品洗浄を実施して下さい。  
このために水配管には仕切弁を設け、この仕切弁とユニットとの間の配管には薬品洗浄用の配管接続口を設けて下さい。(図3-3)



### 3 冷却水・冷水配管

⑤ 薬品洗浄時における注意事項と洗浄方法を下記に示しますので、参考としてください。

- (イ) 図3-3のようにメンテナンス用に予め設けた仕切弁を閉として、洗浄用の循環回路を設置します。
- (ロ) 洗浄タンクに希釈した洗浄液を入れ、耐酸ポンプにて洗浄液を循環させます。  
洗浄液は5%リン酸の弱酸液を使用します。頻繁に洗浄されている場合は、5%シュウ酸液を使用することを推奨します。  
循環量は通常使用している水流量の1.5倍以上とし、洗浄液の流れは原則として通常の流れの逆方向としてください。(逆洗)  
各洗浄液ごとに規定された所定時間を目安に洗浄を実施します。
- (ハ) 洗浄後、洗浄廃液を廃液回収タンクに移します。  
洗浄タンクに清水を入れて、プレート式熱交換器内をよくすすぎ洗いします。水洗後、この水も廃液回収タンクに移します。  
※廃液回収タンクに回収した洗浄廃液は中和処理が必要です。廃液処理業者に委託願います。
- (ニ) プレート式熱交換器内に残留した酸を中和させるため、洗浄の最後に1~2%の水酸化ナトリウム(NaOH)又は炭酸水素ナトリウム(NaHCO<sub>3</sub>)にて、回路内のPHが7~9となるように調整します。  
最後に、系内から汚れた水が出なくなるまで十分水洗いをします。
- (ホ) ユニットとシステムの水回路を復旧します。  
洗浄後ユニットが正常に運転する事を確認して下さい。

◆プレート式熱交換器の洗浄の詳細については、洗浄剤メーカーにご相談願います。◆

⑥ 振動をきらう場所へ設置する場合は、冷水配管・冷却水配管の一部にフレキシブルジョイントを使用することをおすすめします。

⑦ 冷却水・冷水配管の入口側には、ユニット取付(付属)のストレーナの設置ならびにユニットの近いところに清掃可能なストレーナ(20メッシュ以上)を必ず設け、ボルト・石類・ゴミ・水配管内の腐食物等の異物が入らないようにして下さい。

ストレーナの設置がない場合やメッシュが粗い場合は、異物が入り凍結破損の原因となります。

ユニットの入口配管部とは別に、ポンプ配管入口近くにも清掃可能なストレーナを取り付けて下さい。  
(図3-4、図3-5)

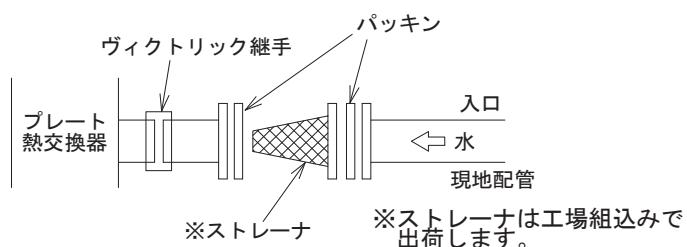


図3-4

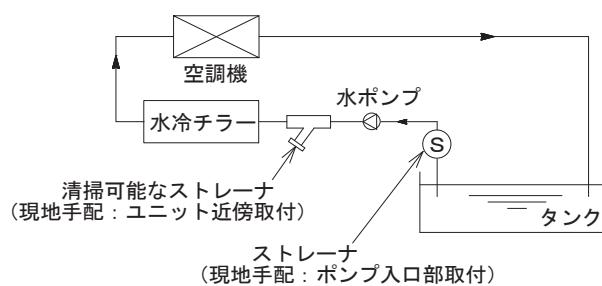
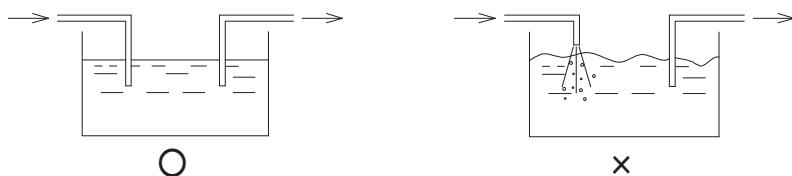


図3-5

- ⑧ 配管には適宜吊具を付けて、水冷却器や凝縮器の継手に無理な荷重がかからないように施工下さい。また、冷水配管には防熱を施工下さい。
- ⑨ 冷水・冷却水の出入口に水頭損失測定用圧力取出口を設けて下さい。  
冷水・冷却水流量が規定水量（使用制限）内であることの確認の際に便利です。
- ⑩ 冷水・冷却水の許容水圧（上限）は下記の通りです。この値以上の水圧がユニットにかかるないようにして下さい。
  - ・冷水側許容水圧：1.0MPa
  - ・冷却水側許容水圧：1.0MPa
- ⑪ 蓄熱槽やクッショントンクなどを水配管に設けるシステムでは、水配管内の溶存酸素発生防止をするためにタンクへ戻す水配管は下図に示すように、空気の泡ができるないように施工して下さい。水中の溶存酸素が増加すると水配管の腐食が促進され、水配管の水漏れの原因となります。  
また、腐食生成物（鉄錆等）がストレーナに詰まったり、プレート式熱交換器内へ堆積し、水量低下や凍結破損の原因となります。



**お願い**

- ・水質基準に適合した冷却水をご使用下さい。水質の悪化は、水漏れ等の原因となることがあります。

## ⚠ 注意

**ブラインは飲用・食品製造用などの用途  
に直接使用しないこと。**

・体調悪化や健康障害、食品劣化のおそれ  
あり。



指示を実行

## (5) ポンプの運転について

### ① ポンプ残留運転について

本ユニットは、水側熱交換器（プレート式熱交換器）の凍結防止のため、「切」後1分間の冷水ポンプ残留運転が必要です。

(A) 冷水ポンプが本ユニットのポンプ運転指令にて制御されている場合

- ・残留運転制御は、すでに組み込まれています。

(B) 冷水ポンプが別盤にて制御されている場合

- ・ユニット「切」後1分間の冷水ポンプ残留運転をお願いします。

### ② 凍結防止運転について

冬季に運転を休止する場合や夜間に運転を停止する場合、外気温が $0^{\circ}\text{C}$ 以下になる地域においては、水回路の自然凍結を防止する処置（水抜き、循環ポンプ運転、ヒータ加熱など）を必ず実施して下さい。

水回路の凍結はプレート式熱交換器破損に繋がりますので使用状況に応じ適切な対策を取って下さい。

尚、本ユニットは冬季、夜間などポンプの停止している場合にプレート式熱交換器の凍結防止のために、ポンプを補助運転させる機能を標準装備していますので、ご使用ください。

（冷水ポンプ及び冷却水ポンプ）

(A) ポンプが本ユニットのポンプ運転指令にて制御している場合

- ・冷却水・冷水出口温度が $3^{\circ}\text{C}$ 以下になるとポンプ運転指令を「ON」してポンプを補助運転させます。

- ・冷却水・冷水出口温度が $5^{\circ}\text{C}$ まで上昇するとポンプ運転指令を「OFF」してポンプを停止させます。

(B) ポンプが別盤にて制御されている場合

- ・凍結防止のために水温低下時は、②(A)項と同様なポンプ運転をお願いいたします。

## (6) 冷水・冷却水の水質について

プレート熱交換器に使用する冷水・冷却水は、冷凍空調機器用水質ガイドライン「JRA-GL-02-1994」を遵守して下さい。この基準から外れた状態で使用した場合には、熱交換器内部に早い時期でスケールが付着し、性能低下や目詰まりが発生する恐れがあります。

ユニットの運転において水質の良否はユニットの性能ならびに寿命に大きな影響がありますので冷水・冷却水水質の事前調査は重要なポイントです。

## ① 基準

ブレージングプレート熱交換器は分解洗浄や部品交換が不可能な構造となっています。  
(部品交換の際はプレート熱交換器本体の交換となります。)

腐食防止及びスケール付着防止のため、水質には十分注意願います。

水質基準については日本冷凍空調工業会の水質ガイドライン(JRA-GL-02-1994)を遵守して下さい。  
また、本基準の遵守が製品保証の前提となりますことをご了解願います。

## ② 水質判定と水質調整処理

水質検査は補給水と循環水に分けて行い、更に現場のチェックが必要です。

補給水は市水、工業用水、井水であっても行う必要があり、その基準値は表3-5によります。  
循環水は補給水が基準を満足すれば問題はないはずですが、大気汚染でタワー用水も汚染されて水質が低下するので、現場での循環水のチェックを実施して下さい。

なお、水質管理は専門の知識を要し、水処理剤などをご使用になる場合はメーカーによって薬剤の性質が異なりますので、水処理専門メーカーにご相談されることをおすすめします。

項目 <sup>(1)(6)</sup>	冷却水系 <sup>(4)</sup>			冷水系		温水系 <sup>(3)</sup>			傾向 <sup>(2)</sup>	
	循環式		一過式			補給水	低位中温水系		高位中温水系	
	循環水	補給水	一過水	循環水 [20°C以下]	補給水	循環水 [20°Cを超え 60°C以下]	補給水	循環水 [60°Cを超え 90°C以下]	腐食	スケール 生成
基準項目	pH[25°C]	6.5~8.2	6.0~8.0	6.8~8.0	6.8~8.0	7.0~8.0	7.0~8.0	7.0~8.0	7.0~8.0	○ ○
	導電率 (mS/m)[25°C]   μS/cm   [25°C]	80以下   800以下	30以下   300以下	40以下   400以下	30以下   300以下	30以下   300以下	30以下   300以下	30以下   300以下	30以下   300以下	○ ○
	塩化物イオンCl <sup>-</sup> (mgCl <sup>-</sup> /ℓ)	200以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	30以下	30以下	○
	硫酸イオンSO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> (mgSO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> /ℓ)	200以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	30以下	30以下	○
	酸消費量[pH4.8] (mgCaCO <sub>3</sub> /ℓ)	100以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	○
	全硬度 (mgCaCO <sub>3</sub> /ℓ)	200以下	70以下	70以下	70以下	70以下	70以下	70以下	70以下	○
	カルシウム硬度 (mgCaCO <sub>3</sub> /ℓ)	150以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	50以下	○
	イオン状シリカ (mgSiO <sub>2</sub> /ℓ)	50以下	30以下	30以下	30以下	30以下	30以下	30以下	30以下	○
	鉄 Fe (mgFe/ℓ)	1.0以下	0.3以下	1.0以下	1.0以下	0.3以下	1.0以下	0.3以下	1.0以下	○ ○
	銅 Cu (mgCu/ℓ)	0.3以下	0.1以下	1.0以下	1.0以下	0.1以下	1.0以下	0.1以下	1.0以下	○
参考項目	硫化物イオン S <sup>2-</sup> (mgS <sup>2-</sup> /ℓ)	検出されないこと	検出されないこと	検出されないこと	検出されないこと	検出されないこと	検出されないこと	検出されないこと	検出されないこと	○
	アンモニウムイオン (mgNH <sub>4</sub> <sup>+</sup> /ℓ)	1.0以下	0.1以下	1.0以下	1.0以下	0.1以下	0.3以下	0.1以下	0.1以下	○
	残留塩素 (mgCl/ℓ)	0.3以下	0.3以下	0.3以下	0.3以下	0.3以下	0.25以下	0.3以下	0.1以下	○
	遊離炭素 (mgCO <sub>2</sub> /ℓ)	4.0以下	4.0以下	4.0以下	4.0以下	4.0以下	4.0以下	4.0以下	4.0以下	○
	安定度指数	6.0~7.0	—	—	—	—	—	—	—	○ ○

注1. 項目の名称とその用語の定義及び単位はJIS K 0101によります。なお、( )の単位及び数値は、従来単位によるもので、参考として併記しています。

注2. 棚内の○印は腐食またはスケール生成傾向に関係する因子であることを示します。

注3. 温度が高い場合(40°C以上)には、一般に腐食性が著しく、特に鉄鋼材料が何の保護皮膜も無しに水と直接接触れるようになっているときは、腐食薬剤の添加、脱気処理などが有効な防食対策を施して下さい。

注4. 密閉式冷却塔を使用する冷却水系において、閉回路循環水及びその補給水は温水系の、散布水及びその補給水は循環式冷却水系の、それぞれの水質基準によります。

注5. 供給・補給される源水は、水道水(上水)、工業用水及び地下水とし、純水、中水、軟化処理水などは除きます。

注6. 上記15項目は腐食及びスケール障害の代表的な因子を示したものです。

### ③ 濁度管理

水に含まれた微小な異物はストレーナを通過してプレート式熱交換器に入り、経年的にプレート式熱交換器内に付着・堆積します。

異物の付着・堆積が進行するとプレート式熱交換器内の水側通路の一部が閉塞し、性能低下や凍結破損の原因となります。

また、異物の付着・堆積は、プレート式熱交換器の孔食の原因となります。

このため、プレート式熱交換器の定期的な洗浄を実施する必要があります。

プレート式熱交換器清掃（薬品洗浄）の目安は5年（水冷却器について）としていますが、使用する水が汚れている場合は異物の付着・堆積の進行が速くなります。

水の汚れの指標として「濁度」があり、腐食防食協会の水質基準は濁度4以内とされています。

水の「濁度」が高く異物の混入が多い場合は、プレート式熱交換器の洗浄を頻繁に実施する必要がありますので、「濁度4以下に管理」することを推奨致します。

濁度4を超える場合は、運転開始から1年程度を目安に洗浄する等の対応をお願いします。

- ・ 冷水は飲用・食品製造用には直接使用しないでください。  
直接使用すると健康を害する可能性があります。
- このような場合は、二次熱交換器を水配管システムに設けるなどの対策を施して下さい。
- ・ 水質検査要領につきましては、水質検査会社へお問い合わせ願います。

# 4. 電気配線

## (1) 主電源接続

- ① 主電源の電圧変動は名板値の±5%以内、また相間電圧のアンバランスは2%以内であることを確認して下さい。
- ② スクリュー圧縮機は回転方向が決まっていますので、R·S·T相の接続を間違えないようにして下さい。
- ③ 本ユニットは、主電源線引込口を制御箱の上部及び下部に標準で準備しております。  
お客様の電源設備のご都合に合わせ、上部または下部電源引込口より主電源線をユニットへ接続ください。その際、引込口小パネルには現地穴加工が必要になります。  
(下部引込を選択される場合は、電線接続ボルトの付替えが必要です。図4-1中の(A)のボルトを(B)の位置に付替えてください。)

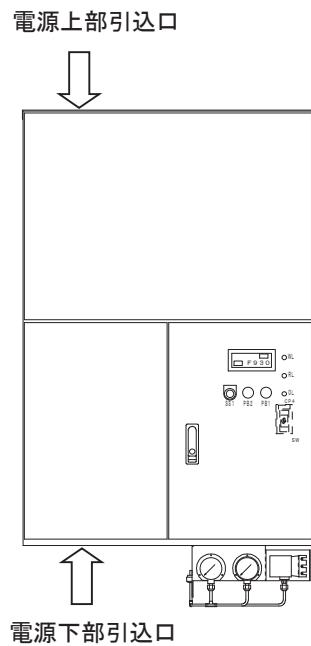


図 4-1 制御箱(正面)

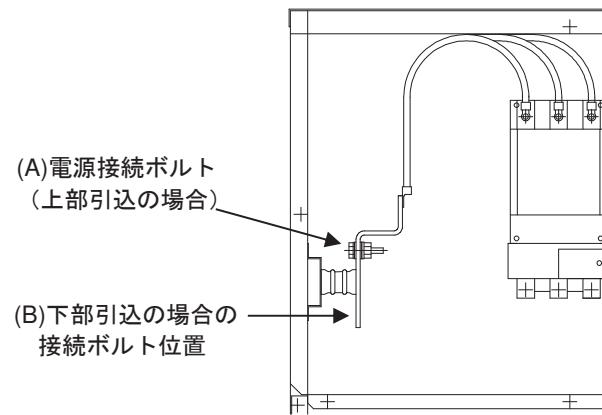


図 4-2 電源引込部詳細

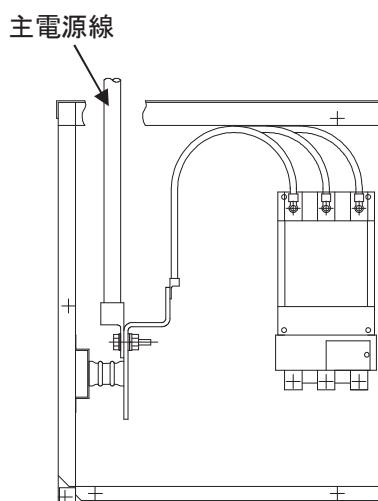


図 4-3 電線接続例(上部引込の場合)

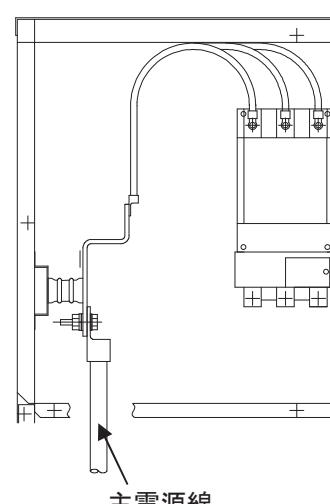


図 4-4 電線接続例(下部引込の場合)

## (2) 制御回路接続

- ① 制御回路の電圧は 200V, 50Hz/60Hz（標準仕様）です。
- ② 冷水・冷却水ポンプインターロックを必ずとって下さい。制御箱には、ポンプインターロック用の端子が付いています。当社出荷時には開放してあるので、現地では必ずインターロックをとって下さい。  
ポンプインターロックの目的は、冷水ポンプ及び冷却水ポンプが運転を始めなければ圧縮機が始動しないようにするためです。
- ③ 電熱器（オイルヒータ）回路はシーズン中、常に通電する必要があるので、夜間等主電源を切る恐れのある場合は、ヒータ回路だけ主電源とは別の電源からとるようにして下さい。  
尚、この場合は結線変更が必要です。別電源にしておけば運転しない時に主電源を切った場合でも、オイルヒータには通電されるので、冷媒の油への溶け込みを防止することができます。
- ④ ユニットには必ずアースを接続して下さい。
- ⑤ ポンプインターロックは、制御箱に AC200V 電源を内蔵していますので、無電圧接点入力をお願い致します。  
遠方からの運転モード切換接点は、制御箱に AC24V 電源を内蔵していますので、無電圧接点入力をお願い致します。
- ⑥ 遠方からのパルス接点については、DC24V 有電圧接点による入力をお願い致します。
- ⑦ **重要** 設備側配線施工時のご注意

AC24V 以下の低電圧回路と AC100V 以上の制御回路の配線を同一多芯ケーブル内へ収納したり、互いに結束して配線しないで下さい。（基板内回路の破損防止のため）

（参考）AC24V 以下の低電圧回路：接点入力（無電圧、パルス、押しボタン、M-NET 伝送線、DC4-20mA 入力線等）

AC100V 以上の制御回路：接点出力、ユニットの主回路線等

- ※1) オイルヒータ回路の電源を別電源からとる場合には、X1-KX、Y1-KY 間の短絡線を外した後、端子 KX、KY へ別電源を接続して下さい。
- ※2) 現地にて、インターロックをとり、端子間を接続しない限り運転はできません。  
インターロック接続の際はポンプ運転信号、または断水開閉器の接点を使用して下さい。

## ⚠ 警告

D種接地工事（アース工事）は第一種電気工事士（工事条件によっては第二種電気工事士）の資格のある電気工事業者が行うこと。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないこと。

・感電・ノイズによる誤動作・発煙・発火・火災・爆発のおそれあり。



アース接続

配線が冷媒配管・部品端面に触れないこと。

・配線が接触した場合、漏電・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

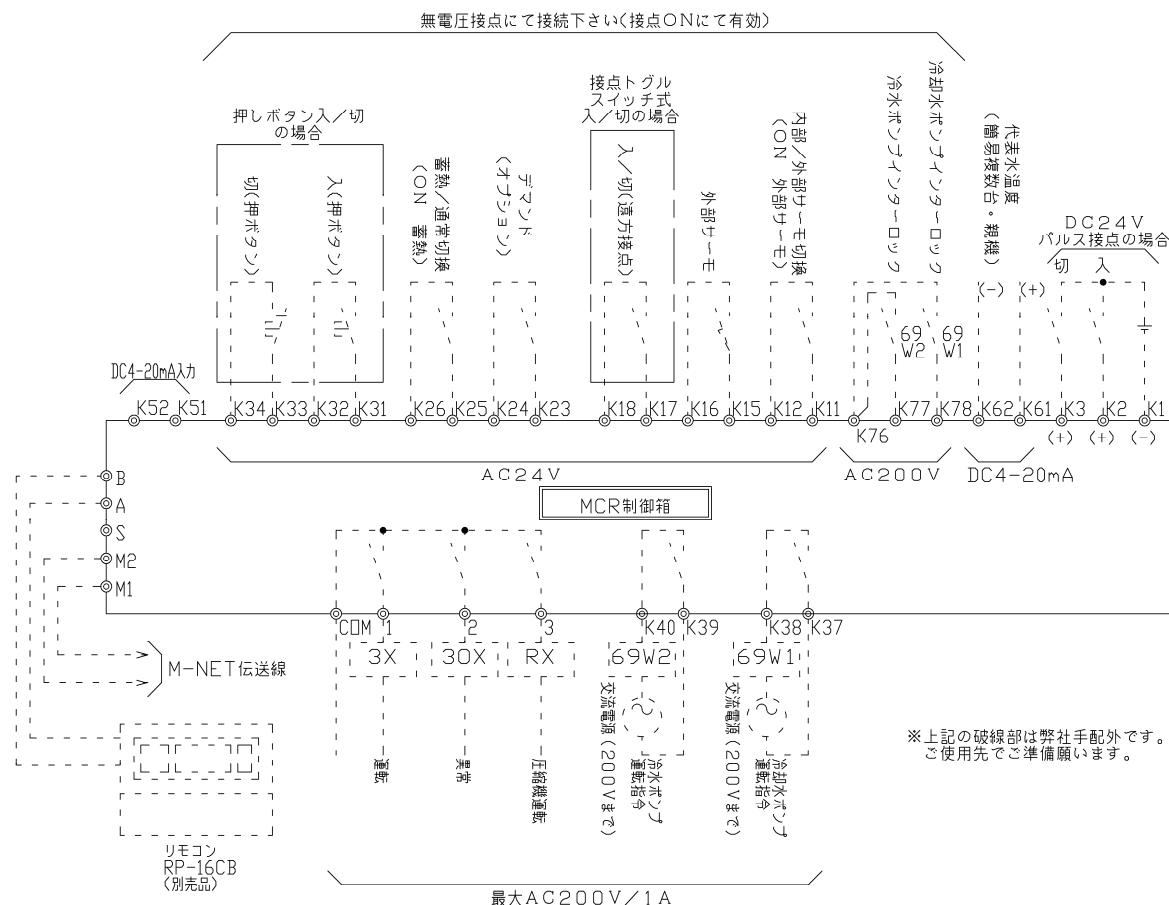


図 4-5 外部信号インターフェイス

### (3) 配線チェック

下記①～④の各項目をチェックしてください。

- ① 電線サイズ、遮断器サイズは適当か。
- ② 電気工事は規格を満足しているか。
- ③ 結線に誤りはないか。
- ④ インターロックは正しく作動するか。

ユニット電気図（展開接続図）は納入図を参照ください。

## (4) 電気配線機器容量及び電線サイズ(表 4-1, 2)

表 4-1 電気特性及び電線サイズ一覧表 (標準機 200V)

形名	電源周波数	最大運転電流	始動電流	電線サイズ	接地線サイズ	遠方信号用電線サイズ	分岐開閉器(漏電ブレーカ)	電源トランス容量
	H z	A	A	mm <sup>2</sup>	mm <sup>2</sup>	mm <sup>2</sup>	—	k V A
MCR-SP40KE	50	117	227	60	22以上	1.25	NV225AF/150AT	44
	60	137	196	60	22以上	1.25	NV225AF/175AT	52
MCR-SP50KE	50	147	289	100	22以上	1.25	NV225AF/175AT	56
	60	170	241	100	22以上	1.25	NV225AF/200AT	65
MCR-SP60KE	50	167	367	100	22以上	1.25	NV225AF/200AT	64
	60	191	305	150	38以上	1.25	NV225AF/225AT	73
MCR-SP80KE	50	216	465	150	38以上	1.25	NV400AF/350AT	82
	60	247	397	150	38以上	1.25	NV400AF/300AT	94
MCR-SP100KE	50	287	549	200	38以上	1.25	NV400AF/400AT	109
	60	333	472	250	38以上	1.25	NV400AF/400AT	127
MCR-SP120KE	50	357	711	150×2	60以上	1.25	NV600AF/600AT	136
	60	403	603	200×2	60以上	1.25	NV600AF/500AT	154
MCR-SP150KE	50	401	843	150×2	60以上	1.25	NV600AF/600AT	153
	60	469	717	200×2	60以上	1.25	NV600AF/600AT	178

表 4-2 電気特性及び電線サイズ一覧表 (異電圧機 400V)

形名	電源周波数	最大運転電流	始動電流	電線サイズ*	接地線サイズ*	遠方信号用電線サイズ	分岐開閉器(漏電ブレーカ)	電源トランス容量
	H z	A	A	mm <sup>2</sup>	mm <sup>2</sup>	mm <sup>2</sup>	—	k V A
MCR-SP40KE	50	59	114	22	14以上	1.25	NV100AF/75AT	44
	60	69	98	22	14以上	1.25	NV100AF/100AT	52
MCR-SP50KE	50	74	145	38	14以上	1.25	NV100AF/100AT	56
	60	85	121	38	14以上	1.25	NV100AF/100AT	65
MCR-SP60KE	50	84	184	38	14以上	1.25	NV100AF/100AT	64
	60	96	153	38	22以上	1.25	NV225AF/125AT	73
MCR-SP80KE	50	108	233	60	22以上	1.25	NV225AF/125AT	82
	60	124	199	60	22以上	1.25	NV225AF/150AT	94
MCR-SP100KE	50	144	275	100	22以上	1.25	NV225AF/175AT	109
	60	167	236	100	22以上	1.25	NV225AF/200AT	127
MCR-SP120KE	50	179	356	100	22以上	1.25	NV225AF/200AT	136
	60	202	302	150	38以上	1.25	NV225AF/225AT	154
MCR-SP150KE	50	201	422	150	38以上	1.25	NV225AF/225AT	153
	60	235	359	150	38以上	1.25	NV400AF/300AT	178

## &lt;備考&gt;

- 1) 電源トランス容量は MCR のみに必要な最小容量です。  
実際には冷水ポンプその他の補機を含めたトランス容量を選定して下さい。
- 2) ユニットに供給される電源電圧はユニット電源端子部で仕様電圧±5% (一時的には±10%まで許容) となるよう設計して下さい。また、相間アンバランス 2%以内となるようにして下さい。
- 3) 主電源電線サイズは IV 線を使用し金属管に電線 3 本以下とした場合を示します。  
尚、現地の配線状態 (電線が長い等) により電圧降下が生じ、ユニットが正常に運転できなくなる場合があります。電線サイズは電圧が電源端子部で名板値の±5%以内となるように適宜設計して下さい。
- 4) 分岐開閉器 (漏電ブレーカ) は、弊社製推奨品の形名を記載しています。  
尚、標準仕様の場合、漏電ブレーカは装備していません。
- 5) 本ユニットの受電設備における分岐開閉器につきましては、本ユニットが水気のある場所に設置される可能性がありますので、漏電ブレーカを設置してください。詳細は「電気設備の技術基準 (※)」、「電気設備の技術基準の解説」、「内線規程」を参照のうえ、漏電遮断器等の地絡遮断器に関する記載に従ってください。※電気設備に関する技術基準を定める省令
- 6) 電源電圧 200Vにおいて MCR-SP150KE の分岐開閉器につきましては、瞬時引外し倍率 1000%にて選定しております。
- 7) アース電線サイズはアルミの場合を示します。

## (5) 冷水ポンプの連動運転による水温上昇防止

ユニットの停止中にポンプのみ運転すると、ポンプの発熱により冷水温度が異常上昇することがあります。冷水温度上昇 (MAX. 35°C) によりポンプを停止させる保護サーモを設けて下さい。

## 三菱電機株式会社

冷熱システム製作所 〒851-2102 長崎県西彼杵郡時津町浜田郷517-7

### お問い合わせは下記へどうぞ

三菱電機住環境システムズ株式会社 北海道支社	…(011)893-1342
三菱電機住環境システムズ株式会社 東北支社	…(022)742-3020
三菱電機住環境システムズ株式会社 関越支社	…(048)651-3224
三菱電機住環境システムズ株式会社 東京支社	…(03)3847-4339
三菱電機住環境システムズ株式会社 中部道支社	…(052)527-2080
北陸営業部	…(076)252-9935
三菱電機住環境システムズ株式会社 関西支社	…(06)6310-5061
三菱電機住環境システムズ株式会社 中四国支社	…(082)504-7362
営業本部(四国)	…(087)879-1066
三菱電機住環境システムズ株式会社 九州支社	…(092)476-7104
沖縄三菱電機販売株式会社	…(098)898-1111

#### 三菱電機空調冷熱ワンコールシステム (365日・24時間受付)

0120-9-24365 (無料)  
※各PIS OK

問合せ先がご不明な際は、こちらにおかけください。

「修理のご依頼」「サービス部品のご相談」「技術相談」

(技術相談の対応時間は月～金曜 9:00～19:00、土曜・日曜・祝日 9:00～17:00)

店舗用・ビル用・設備用エアコン、チラー、冷凍機に関する技術相談専用

三菱電機冷熱相談センター

〈フリー vozis〉0037-80-2224 / 〈携帯・IP電話対応〉073-427-2224

\* 対応時間はワンコールシステム「技術相談」と同様です

暮らしと設備の業務支援サイト WIN<sup>2</sup>K



製品のカタログ・技術情報等はこちら  
[www.MitsubishiElectric.co.jp/wink](http://www.MitsubishiElectric.co.jp/wink)

三菱電機WIN2K

検索

2023年10月作成

EYNT-13831-1R